200823052A

厚生労働科学研究費補助金
第3次対がん総合戦略研究事業

がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB) の構築と運用

(H19-3次がん-一般-038)

平成20年度　総括・分担研究報告書

平成21 (2009) 年 3月

研究代表者　　手島　昭樹

別添１

厚生労働科学研究費補助金

第３次対がん総合戦略研究事業

がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用

平成２０年度　総括・分担研究報告書

研究代表者　手島　昭樹

平成２１（２００９）年　３月

別添２

目　　次

Ｉ．総括研究報告
がん診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB) の構築と運用
手島　昭樹 ------------------------------ 1
（資料）第１回合同班会議資料、米国IMPAC社視察報告資料

II. 分担研究報告（研究者別）
1．前立腺癌JNCDB、泌尿器科学科前立腺癌登録 ------------------------------ 19
三木　恒治
2．食道癌JNCDB、食道癌登録 ------------------------------ 20
日月　裕司
3．子宮頚癌JNCDB、子宮癌登録 ------------------------------ 21
笠松　高弘
4．乳癌JNCDB、乳癌登録 ------------------------------ 24
木下　貴之
5．肺癌JNCDB、肺癌登録 ------------------------------ 28
呉屋　朝幸
6．乳癌JNCDB、画像DB、他科との調整 ------------------------------ 29
光森　通英
7．食道癌、肺癌JNCDB ------------------------------ 32
宇野　隆
8．前立腺癌JNCDB、日米比較 ------------------------------ 34
中村　和正
9．肺癌JNCDB ------------------------------ 35
角　美奈子
10. 子宮頚癌JNCDB、日米比較 ------------------------------ 39
戸板　孝文
11. 子宮頚癌JNCDB ------------------------------ 40
古平　毅
12. 食道癌JNCDB ------------------------------ 44
権丈　雅浩
13. 前立腺癌JNCDB、日米比較 ------------------------------ 46
小川　和彦
14. 乳癌JNCDB、日米比較、オンライン化技術、画像DB ------------------------------ 48
鹿間　直人
15. JNCDB開発、個人情報関連基盤 ------------------------------ 49
大西　洋
16. 前立腺癌JNCDB ------------------------------ 50
小泉　雅彦
17. IHE-J渉外委員長、国内企業渉外 ------------------------------ 56
安藤　裕
18. がん登録法的問題渉外、海外企業渉外 ------------------------------ 61
中川　恵一
19. IHE-JRO WG委員長、国内企業渉外 ------------------------------ 63
塚本　信宏
20. IHEJ-RO WG、国内企業渉外 ------------------------------ 67
小塚　拓洋
21. JNCDB技術開発、個人情報関連基盤、統計解析 ------------------------------ 68
沼崎　穂高
22. IHE-JRO、海外企業渉外 ------------------------------ 70
寺原　敦朗

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 ------------------------------ 71

IV. 研究成果の刊行物･別刷 ------------------------------ 85

別添３

厚生労働科学研究費補助金

第３次対がん総合戦略研究事業

がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の構築と運用

平成２０年度　総括研究報告書

研究代表者　手島　昭樹

平成２１（２００９）年　３月

厚生労働科学研究費補助金（第３次対がん総合戦略研究事業）

総括研究報告書

「がんの診療科データベースと Japanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用」

（H19-３次がん-一般-038）

(研究代表者)　手島　昭樹　大阪大学大学院医学系研究科教授

研究要旨　全国的ながん診療評価を臨床治療面から行っている各学会主体の臓器別がん登録のデータ収集元であるがん診療施設の各診療科データベースDBや、臓器横断的に重要な役割を果たす放射線治療情報を管理する放射線治療部門DBの標準登録様式、項目を策定し、DBの構築を支援すると共に、将来の全国的なデータ収集・分析に備えたDBシステム(JNCDB)を構築し運用することを目的とする。本年度は各診療科DBの標準フォーマットの策定に関して、食道癌で458施設に診療科DBとして利用可能な全国登録ソフトを配布し、全国登録を再開してデータ収集・分析を行った。乳癌、子宮頸癌は個人情報部分の院内がん登録様式との統一を現在、学会で審査中である。前立腺癌は具体的装填を協議中である。肺癌も検討中である。決定された放射線治療部門DBの疾患共通標準フォーマットを盛り込んだ放射線治療部門基本DBの開発を完了し、日本放射線腫瘍学会JASTRO HPからダウンロード可能にした。利用施設への技術提供を継続中である。さらに疾患固有標準フォーマットを盛り込んだ各論DBを開発中である。将来の全国的データ収集を想定し、また電子カルテとの連携を目指してデータが全国登録DB（JNCDB）に集積される部門システム開発に関する話し合いと視察を開発企業に対して開始した。がん登録法制化を進めるために国民に対する啓蒙活動の一環としてがん登録（臓器別、手技別）啓発のためのパンフレット策定作業を開始した。

分担研究者氏名・所属機関名及び所属機関における職名

三木　恒治	京都府立医科大学大学院	教授
日月　裕司	国立がんセンター	医長
笠松　高弘	国立がんセンター	医長
木下　貴之	国立がんセンター	医長
呉屋　朝幸	杏林大学	教授
光森　通英	京都大学大学院	准教授
宇野　隆	千葉大学大学院	准教授
中村　和正	福岡大学医学部	講師
角　美奈子	国立がんセンター	医長
戸板　孝文	琉球大学	准教授
古平　毅	愛知県立がんセンター	部長
権丈　雅浩	広島大学大学院	助教
小川　和彦	琉球大学附属病院	准教授
鹿間　直人	信州大学附属病院	准教授
大西　洋	山梨大学医学部	准教授
小塚　拓洋	癌研究会附属病院	副部長
安藤　裕	放射線医学総合研究所	部長
塚本　信宏	埼玉医科大学	講師
中川　恵一	東京大学大学院	准教授
小泉　雅彦	大阪大学大学院	特任教授
沼崎　穂高	大阪大学大学院	助教
寺原　敦朗	東京大学大学院	講師

A. 研究目的

米国ではがん登録は法制化されている。米国外科専門医会による臨床治療情報を主体とする National Cancer Database（NCDB）の標準フォーマットは自動的に成型・提出できるよう装填されている。NCDB は施設認定に利用されており、米国のがん診療の司令塔として重要な役割を果たしている。放射線治療分野では各種機器・システム間のデータ通信プロトコルや業務フローについて IHE-RO や DICOM WG7（Digital Imaging and Communications in Medicine Working Group が連携し、統一化を行っている。

国内では診療科 DB は施設毎に企業と個別に対応あるいは全く対応されていない状況にある。放射線治療分野では 2006 年 2 月に IHE-J RO WG が発足し、業務フローの洗い出し、機器間の接合性を検討中である。

JASTRO DB 委員会で構築、運用してきた広域データベースは、放射線治療情報の標準化に貢献をしてきたが、項目数は50と少ない。その標準項目に加えて高度の情報も順次組み込める、柔軟な設計をもった標準フォーマットが必要となっている。

全国的ながん診療評価を臨床治療面から行っている各学会主体の臓器別がん登録のデータ収集元であるがん診療施設の各診療科 DB や、臓器横断的に重要な役割を果たす放射線治療情報を管理する放射線治療部門 DB の標準登録様式、項目を策定し、各 DB の構築を支援すると共に、将来の全国的なデータ収集・分析に備えた DB システム（JNCDB）を構築し、運用することを目的とする。具体的には、①臨床治療面を重視した全国的がん診療評価システム（有効性、安全性）の構築と運用、②診療科 DB 整備、臓器別、院内、地域がん登録との情報共有、③電子カルテシステムへの装填、④放射線治療の標準登録様式策定、装置間連携、⑤がん登録法制化可能性の検討を行う。

B. 研究方法

1）診療科 DB 雛型としての臓器別がん登録との情報共有: 対象 5 疾患の臓器別がん登録担当者と継続的に情報交換を行っている。標準フォーマットの策定は従来の臓器別がん登録フォーマットと JNCDB フォーマットのすり合わせを行っている。各学会の進捗に合わせる必要があるため全疾患が当初の計画通りには進んでいるわけではない。食道癌に関しては予定通り策定を終了し、全国登録を再開した。乳癌、子宮頸癌に関しては学会に提案書を提出し、審議中である。前立腺癌は 2009 年度、肺癌は 2010 年度に全国登録が行われることとなっており、その全国登録に合わせて現在担当者と検討中である。

2）放射線治療の基本 DB、各論 DB 開発、全国放射線治療施設への提供: 疾患共通部分、疾患固有部分の標準フォーマットは当初の予定通り、それぞれ平成 19 年度、平成 20 年度に策定が終了した。またフォーマットを盛り込んだ基本 DB、各論 DB の開発も同時に進行しており、基本 DB は平成 19 年度に JASTRO HP に掲載し、20 年度に再発様式、２次発がん情報を盛り込んだ改訂版を掲載している。各論 DB も平成 20 年度中に掲載予定である。

3）装置間連携（標準化）に関する IHE-JRO 委員会、JASTRO DB 委員会と協力・支援: 月 1 回定期的に IHE-JRO 委員会に参画している。現状の成果について JASTRO でパネルとデモを行い、全国の会員に周知した。JASTRO DB 委員会の 2007 年定期的構造調査を支援した。

4）米国 NCDB 国際比較研究と IMPAC 社視察と交渉: 乳癌と子宮頸癌について日米 NCDB 比較研究を提案中である。米国の最も市場占有率の高い IMPAC 社を視察し、開発側からの米国の診療科 DB の IT 関連技術の情報収集を行い、同システムに JNCDB の調査項目の装填と日本語化の交渉を行った。

5）がん登録（臓器、手技別）の啓発活動: がん登録の法制化に向けて、がん登録の啓蒙活動を行うためのワーキンググループを立ち上げた。当面、臓器別がん登録、放射線治療 DB 等の国民にわかりやすいパンフレットの作成を目指して国民に対してがん登録の重要性を発信し、民意でのがん登録法制化を働きかける。

C. 研究結果

1）臓器別がん登録との情報共有: ①食道癌は昨年、連結不可能匿名化にて全国登録再開した。個人情報部分は院内がん登録様式に統一化し、2001年度症例を解析中（241施設3940症例）である。本研究班はソフト開発とデータ解析を担当している（図1）。②乳癌，子宮頸癌は個人情報部分の院内がん登録様式との統一化を学会に提案，現在審議中である。③前立腺癌は全国登録ソフト開発担当者とフォーマットの調整中である。④肺癌は2010年の全国登録に向けたフォーマット策定とソフト開発支援（フォーマットの整合性の調整中）。

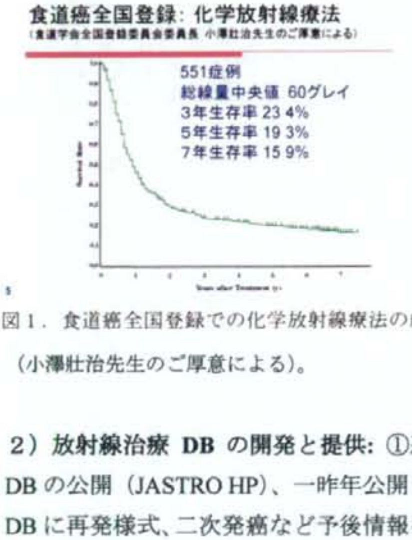

図1．食道癌全国登録での化学放射線療法の成績（小澤壮治先生のご厚意による）。

2）放射線治療 DB の開発と提供: ①基本DB の公開（JASTRO HP）、一昨年公開したDB に再発様式、二次発癌など予後情報を充実させ改訂版として公開（2008/7）した。要望施設に技術支援を個別に継続中である。同HP のDB ダウンロードページの閲覧数は2160 人（2008/7-2009/1）であった。②各論DB の開発と公開。乳癌、子宮頸癌、食道癌、肺癌、前立腺癌について、疾患固有フォーマットを盛り込んだ各論 DB を開発中で、3月中にJASTRO HP に公開予定である(図2)。いずれも個人情報部分は将来の情報共有を想定して院内がん登録様式に統一している。

図2．放射線治療 DB をオープンソース化させることにより各施設における情報系整備を促進させる。

3）IHE-JRO、JASTRO DB委員会活動: ①IHE-J ROとの連携は、放射線治療部門の装置間連携（標準化）をJASTRO、米国放射線腫瘍学会（ASTRO）と連携して活動している。異なるメーカの装置間の情報連携を達成しつつある 2008JASTRO学術大会にて放射線治療関連機器メーカが参加し、機器連携のデモを行った 。

②JASTRO DB委員会との連携は、日本の全放射線治療施設の定期的構造調査（2007）を支援した。データ集積は 720施設（765施設中：94%）であり、現在、詳細解析中である（図3）。

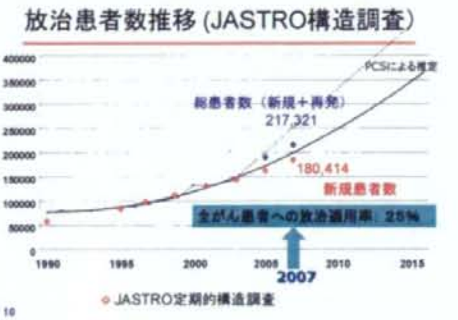

図３．放射線治療患者数推移。全がん患者への放射線治療適応率は25%であるが、欧米並みの50-60%へと成熟すると臓器横断的であるので、重要なオンコロジーデータベースとして成長する可能性を秘めている。

③大阪府がん登録とのJASTRO構造調査結果を乳癌症例で分析した。施設構造充実度と治療成績に相関があることが推定された（図４）。

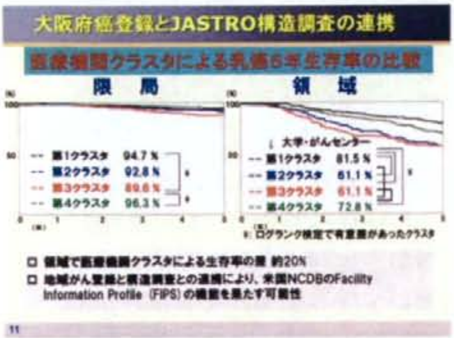

図４．大阪府癌登録とJASTRO構造調査との連携。領域においてインフラの充実度によって治療成績の差が観察された。NCDBにある全国施設構造データFacility Information Pofile (FIPS)のように施設認定の機能を果たせる可能性を示した。

４）日米 NCDB 比較研究と米国 IMPAC 社の視察：①国際比較研究として、臓器別がん登録と米国 NCDB の国際比較を乳癌、子宮頸癌について提案中である。②米国カリフォルニア州 IMPAC 社の視察と協議 を 2 月 8 日～13 日に行った。米国のがん診療科 DB として市場占有率の最も高いオンコロジーDB システムで、システムの IT の詳細を調査し、同システムに放射線治療部門標準フォーマット（基本、各論部分）の装填可能性を協議した。以下の 3 システムについて視察した。a. Précis-Central: データ収集・管理に優れている。各種がん登録のデータセンター用システムとしては活用可能であるが、診療科 DB の装填には不適（西本班にて実証済み）。c. METRIQ: 米国における院内がん登録システム。院内がん登録、診療科 DB の装填可能性あり。d. MOSAIQ: 放射線治療部門のデータ管理システム。診療科 DB（JNCDB format）の装填には最適。このシステムへの JNCDB の調査項目の装填可能性を協議し（図５）、日本語化の開発とともに JNCDB の調査項目の装填の開発を協力して進めていくことが決定した。

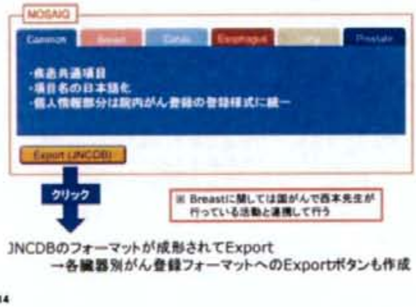

図５．米国 IMPAC 社のがん診療科 DB である MOSAIQ への JNCDB または臓器別がん登録調査項目装填のイメージ図。ワンクリックで各種癌登録フォーマトへのデータ提供が可能となる。

５）がん登録の啓発活動：①「がんに関する普及啓発懇談会」（座長：中川班員）より、がん登録啓発のためのわかりやすいパンフレットの作成を依頼された。②小作業部会立ち上げて、 委員長に小塚班員、委員として木下班員、角班員 、寺原班員、小泉班員、沼崎班員に委嘱した。法制化のための活動の前段階として臓器別がん登録、手技別がん登録に関しても国民に理解し易

いパンフレットを作成するための作業を開始した（図6）。

図6、参考： 中川班員が出版したがんに関する啓発用の資料。がん登録について触れていない。

（倫理面への配慮）

- 標準フォーマットの策定、DB システム開発では、個人情報は取り扱わない。
- 全国的なデータ収集・分析（JNCDB の運用）では、先行研究（H16-3 次がん-039）において、申請者の所属機関（大阪大学医学部）の倫理委員会の承認を得ているので、本研究では継続申請を行う。
- 個人情報を連結不可能匿名化してデータを収集するため、施設側で倫理審査を受ける必要はないが、要望があった場合に対応できるように、下記項目を盛りこんだ倫理審査申請書を準備しておく。
    - ➤ 個人情報は集積しないため、インフォームドコンセントを受ける必要ない。研究の実施をポスターにより提示する。また、研究対象者に不利益は生じない。
    - ➤ データの管理に関して、情報保護規約を策定し、研究班として遵守する。
    - ➤ 全体の研究成果については、学会論文発表、Web を通じて定期的に行う。

以上の最終責任は主任研究者が負う。

D. 考察

本研究では臓器横断的な放射線治療 DB を普及させ、全国の放射線治療施設の情報系を整備すると同時に臓器別がん登録、院内がん登録との情報共有を目指している。放射線治療は現在、全がんの 25%に施行されている(2007 年、18 万人強)。欧米並みの 50-60%に普及するとオンコロジーDB としてはさらに重要な役割を果たすと想定される。米国のオンコロジーDB として最も市場占有率の高い IMPAC 社のシステムは放射線治療 DB から開発された経緯があり、ある程度、日本の状況と符号している。

既存のがん登録の中で地域がん登録は生存情報が確実に得られる仕組みだが、治療法の詳細情報が不明であるため国民や患者や現場の医師が最も知りたい治療内容・成績の分析は不可能である。学会主導の臓器別がん登録は治療内容の詳細が得られるが、予後調査が正確でないため生存率が過大評価されるなどの問題点を抱えている。各種がん登録は分散管理されているので各登録の強みを最大限引き出して低コストで効率的に運用するためには効率的な情報共有を促進することが重要である。本先行研究班で技術開発と検証を行い、個人情報保護法下でも正確な情報共有が可能であることを示してきた。院内がん登録データを真に生かし各施設の診療の質を評価して向上させるには各施設におけるがん診療科 DB に治療（過程）情報が効率的に集積され、人員・装備（構造）情報も同時に必須である。結果評価は地域がん登録との共有が必要である。

中断していた日本食道学会の食道癌全国

登録を昨年度再開できた。個人情報部分は院内がん登録様式に統一して、将来の情報共有に備えている。開発した一方向難読化技術（ハッシュ化）により個人情報保護法に抵触なくデータ集積可能にした。地域がん登録の予後情報や臓器別がん登録がん診療連携拠点病院で実施する院内がん登録の標準登録様式や JNCDB の項目と整合性を確保できる項目となっているため、将来的には他のがん登録との共有が可能となる（図６）。

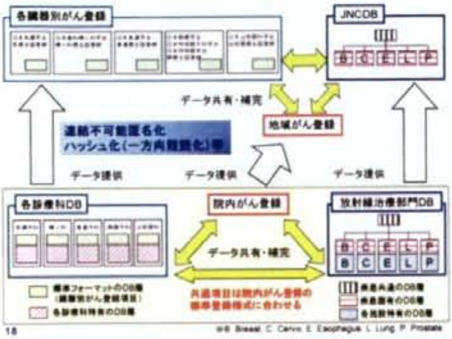

図６．各診療科 DB と臓器別がん登録、放射線治療部門 DB, JNCDB の位置付け

各診療科が標準フォーマットを組み込んだ情報を管理できれば、診療科を超えたデータ共有、かつ全国的なデータ収集・分析が容易となり、国内外の共同研究も促進される。この基盤を構築する本研究は学術上重要であるだけでなく社会的意義が大きい。患者の安全確保に貢献する。さらに標準フォーマットを用いることにより、DB 構築の開発コストを削減し、診療の質と効率を改善させる。本研究により開発される疾患共通および疾患固有の標準フォーマットは、わが国のがん臨床の治療研究や精度管理を行うための全国的なデータ収集、共有、分析の基盤となる。また、上記標準フォーマットは厚生労働省が推進している院内がん登録とのデータ共有を実現するためのフォーマットとなっており、相互のデータ共有によるデータ補完が将来可能となる。均てん化の技術評価が可能となる。我が国においては電子カルテシステムが普及してきているが、情報の後利用については未成熟である。当面、JNCDB も開発企業との連携を模索しつつも、部門 DB のオープンソース化と電子カルテ装填に対する交渉を２本立てで行う。 後者の進展が十分でなくても現場の情報系の整備が確実に進むように努力する。進めば移行する（図７）。

図７．がん診療科 DB（JNCDB）開発の流れ

がん対策基本法で重点課題に挙げられているがん登録は一般の国民にまだその存在、必要性が浸透しておらず、さらに個人情報保護の観点から登録への理解が足りずに十分なデータを集積できない状況である。米国のようながん登録の法制化に向けての基盤づくりとして、「がんに関する普及啓発懇談会」（座長・中川班員）のタスクフォースグループとしてがん登録の啓蒙活動を開始した。国民へのがん登録の関心が高まり、国民の理解の下の登録事業あるいは法制化がなされることは、がん医療の向上につな

がり、社会的意義が大きい。

E. 結論

JNCDB 開発と運用によりわが国のがん診療の実態が正確に把握され、医療現場の診療の質向上に具体的に寄与しうる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Toita T., Kodaira T., Shinoda A., Uno T., Akino Y., Misumori M., Teshima T., Patterns of radiotherapy practice for patients with cervical cancer (1999-2001): Patterns of Care Study in Japan. *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 70(3): 788-794, 2008

Toita T., Kodaira T., Uno T., Shinoda A., Akino Y., Misumori M., Teshima T., Patterns of pretreatment diagnostic assessment and staging for patients with cervical cancer (1999-2001): Patterns of Care Study in Japan. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 38(1): 26-30, 2008

Uno T., Sumi M., Ishihara Y., Numasaki H., Mitsumori M., Teshima T., for the Japanese PCS Working Subgroup of Lung Cancer. Changes in patterns of care for limited –stage small cell lung cancer: Results of the 99-01 Patterns of Care Study-A nationwide survey in Japan. *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 71(2): 414-419, 2008

Teshima T., Numasaki H., Shibuya H., Nishio M., Ikeda H., Ito H., Sekiguchi K., Kamikonya N., Koizumi M., Tago M., Nagata Y., Masaki H., Nishimura T., Yamada S., and Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee. Japanese Structure Survey of Radiation Oncology in 2005 based on institutional stratification of Patterns of Care Study. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 72 (1): 144-152, 2008.

Numasaki H., Teshima T., Shibuya H., Nishio M., Ikeda H., Ito H., Sekiguchi K., Kamikonya N., Koizumi M., Tago M., Nagata Y., Masaki H., Nishimura T., Yamada S., and Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee. National Structure of Radiation Oncology in Japan with Special Reference to Designated Cancer Care Hospital. *Int. J. Clin. Cncol.* (in press)

手島昭樹、日本 PCS 作業部会 特集２ 放射線治療の現状と今後 PCS からみた問題点―米国との比較. *映像情報 Medical* 40(6): 602-605, 2008

手島昭樹、山本時裕 特集 医学物理士の養成～放射線治療高度化で急務に～米国に学ぶ医学物理士の養成・活用法. *原子力 eye* 54(10): 16-20, 2008

手島昭樹、日本 PCS 作業部会（厚生労働省がん研究助成金計画研究班 8-27, -29, 10-17, 14-6, 18-4) 4. PCS (Patterns of Care Study) による日米間の放射線治療の比較. *Cancer Frontier* 10(1): 143-150, 2008

小澤壯治、日月裕司、田中乙雄、篠田雅幸、宇田川晴司、松原久裕、馬場秀夫、竹内裕也、小山恒男、室圭、宇野隆、手島昭樹、沼崎穂高、山名秀明、小西敏郎 I. 食道癌、1. 食道癌全国登録再開にあたり-問題点と解決法- Current Organ Topics Upper G. I. Cancer 食道・胃癌. *癌と化学療法* 35(9): 1497-1499, 2008

Fujihara A., Miki T., et al., Intratumoral injection of inactivated sendai virus particles elicits strong antitumor activity by enhancing local CXCL10 expression and systemic NK cell activation. *Cancer Innunol Immunother* 57 73-84, 2008

Arai Y., Miki T., et al., The growth-inhibitory effects of dexamethasone on renal cell carcinima in vivo and in vitro. *Cancer Invest* 26(1) 35-40, 2008

Naya Y., Miki T., et al., A comparison of cooling methods for laparoscopic partial nephrectomy. *Urology* 72(3) 687-689,2008

Kamoi K., Okihara K., Miki T., et al., The utility of transrectal real-time elastography in the diagnosis of prostate cancer. *Ultrasound Med. Biol.* 34(7) 1025-1032, 2008

Ukimura O., Okihara K., Miki T., et al., Real-time virtual ultrasonographic radiofrequency ablation of renal cell carcinoma. *BJU Int.* 101(6) 707-711,2008

Okihara K., Miki T., et al., Ten year trend in prostate cancer screening with high prostate specific antigen exposure rate in Japan. *Int. J. Urol.* 15(2) 156-160,2008

Salas JC., Miki T., et al., Penile erection and micturition evens triggered by electrical stimulation of the mesopontine tegmental area. *Am J. Physiol. Regul. Integr. Comp. Physiol.* 294(1) 102-111, 2008

Obara W., Miki T., et al., Prospective study of combined treatment with interferon-alpha and active vitamine D3 for Japanese patients with metastatic. *Int. J. Urol.* 15(9) 794-799,2008

Shintaku I., Miki T., et al., Survival of metastatic germ cell cancer patients assessed by international germ cell consensus classification in Japan. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 38(4) 281-287, 2008

Yamamoto K., Miki T., et al., Significant antitumor activity of cationic multilamellar liposomes containing human interferon-βgene in combination with 5-fluorouracil against human renal cell carcinoma *Int. J. Oncol.* 33 565-571,2008

Ukimura O., Okihara K., Miki T., et al., Naftopidil versus tamsulosin hydrochloride for lower urinary tract symptoms associated with benign prostatic hyperplasia with special reference to the storage symptom: a prospective randomized controlled study. *Int. J. Urol.* 15(12) 1049-1054,2008

Yasuda T., Miki T., et al., Anti-gout agent allopurinol exerts cytotoxicity to human hormone-refractory prostate cancer cells in combination with tumor necrosis factor-related apoptosis-inducing ligand. *Mol. Cancer Res.* 6(12) 1852-1860,2008

Washio M., Miki T., et al., Hypertension and other risk factors for kidney cancer (renal cell carcinoma) in a Japanese population:findings form the JACC Study. *Int. Med. J.* 15(3) 343-347,2008

Kobayashi Y., Tachimori Y., Histological diversity in basaloid squamous cell carcinoma of the esophagus. *Dis. Esophagus* Oct 1 Epub, 2008

Tachimori Y., Role of salvage esophagectomy after definitive chemoradiotherapy. *Gen. Thorac. Cardiovasc. Surg.* 57 (2) 71-8,2009

Tachimori Y., Salvage esophagectomy after high-dose chemoradiotherapy for esophageal

squamous cell carcinoma. *J. Thorac. Cardiovasc. Surg.* 137 (1) 49-54, 2009
Kikuchi R., Kasamatsu T., et al., Frequent inactivation of a putative tumor suppressor, angiopoietin-like protein 2, in ovarian cancer. *Cancer Res.* 68: 5067-75, 2008
Nishio S., Kasamatsu T., et al., Analysis of the clinicopathological prognosis of stage IVb cervical carcinoma. *Oncol Rep* 19: 497-503, 2008
Nishio S., Kasamatsu T., et al., Usefulness of third-line chemotherapy for women with recurrent ovarian, fallopian tube, and primary peritoneal cancer who receive platinum/taxane regimens as first-line therapy. *J. Cancer Res. Clin. Oncol.*, 2008
Nishio S., Kasamatsu T., et al., Cap43/NDRG1/Drg-1 is a molecular target for angiogenesis and a prognostic indicator in cervical adenocarcinoma. *Cancer Lett.* 264: 36-43, 2008
Sasajima Y., Kasamatsu T., et al., Gross features of lobular endocervical glandular hyperplasia in comparison with minimal-deviation adenocarcinoma and stage Ib endocervical-type mucinous adenocarcinoma of the uterine cervix. *Histopathology* 53: 487-90, 2008
Tanikawa M., Kasamatsu T., A case of diffuse retroperitoneal lymphangioma with endometrial cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 38: 507, 2008
Nishio S., Kasamatsu T., et al., Clinicopathological significance of cervical adenocarcinoma associated with lobular endocervical glandular hyperplasia. *Pathol. Res. Pract.* , 2009.
Shien T., Kinoshita T., et al., Evaluation of axillary statusin patients with breast cancer using thin-section CT. *Int. J. Clin. Oncol.* 13 314-319, 2008
Shien T., Kinoshita T., et al., Clinical efficacy of S-1 in pretreated metastatic breast cancer patients. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 38(3) 172-175, 2008
Uehara M., Kinoshita T., et al., Long-term prognostic study of carcinoembryonic antigen (CEA) and carbohydrate antigen 15-3 (CA 15-3) in breast cancer. *Int. J. Clin. Oncol.* 13 447-451, 2008
Shien T., Kinoshita T., et al., Comparison among different classification systems regarding the pathological response of preoperative chemotherapy in relation to the long-term outcome. *Breast Cancer Res. Treat.* (in press)
Shimizu C., Kinoshita T., et al., Long-term outcome and pattern of relapse after neoadjuvant chemotherapy (NAC) in patients with human epidermal growth factor receptor 2 (HER2) –positive primary breast cancer. *Annals of Oncology* (in press)
Sugano K., Kinoshita T., et al., Cross-sectional analysis of germline *BRCA1* and *BRCA2* mutations in Japanese patients suspected of hereditary breast/ovarian cancer. *Cancer Science* (in press)
Shien T., Kinoshita T., et al., Usefulness of preoperative multidetector-row computed tomography in evaluating the extent of invasive lobular carcinoma in patients with or without neoadjuvant chemotherapy. *Breast Cancer* (in press)

Akashi-Tanaka S., Kinoshita T., et al., Whole-breast volume perfusion images using 256-row multislice computed tomography :visualization of lesions with ductal spread. *Breast Cancer* (in press)

Hojo T., Kinoshita T., et al., Primary small cell carcinoma of the breast. *Breast Cancer* (in press)

Shien T., Kinoshita T., et al., Clinicopathological features of tumors as predictors of the efficacy of primary neoadjuvant chemotherapy for operable breast cancer. *World Journal of Surgery* (in press)

吉田　亮介，木下　貴之，他 破骨細胞様巨細胞の出現を伴う乳癌の 9 例 *日本臨床外科学会雑誌* 69(7) 1615-1619, 2008

枝園　忠彦，木下　貴之，他 原発性乳がんに対する Primary systemic (PST) の適応 −PST 抵抗性乳がんを治療前に判定可能か？ *乳癌の臨床* 23(1) 49-53, 2008

枝園　忠彦，木下　貴之，他 80 歳以上の超高齢者乳癌の治療 *乳癌の臨床* 23(2) 118-122, 2008

Asamura H., Goya T., et al., A Japanese lung cancer registry study: Prognos is of 13,010 resected lung cancers *J. Thorac . Onc.* 3, 46-52, 2008

Mitsumori M., Hiraoka M., Inaji H., Noguchi S., Oishi H., Kodama H. Koyama H., Impact of radiation therapy on breast-conserving therapy for breast cancer in Japanese women: A retrospective analyses of multi-institutional experience. Kansai Breast Cancer Radiation Therapy Study Group. *Oncology Reports*, 2009 (in press)

Mitsumori M., Hiraoka M., Current status of accelerated partial breast irradiation. *Breast Cancer,* 15, 1, 101-7, 2008.

Mitsumori M., New trends in radiation therapy as a component of breast conserving therapy. *Breast Cancer*, 15, 1, 79, 2008.

Matsumoto K., Ando M., Yamauchi C., Egawa C., Hamamoto Y., Kataoka M., Shuto T., Karasawa K., Kurosumi M., Kan N. Mitsumori M., Questionnaire survey of treatment choice for breast cancer patients with brain metastasis in Japan: results of a nationwide survey by the task force of the Japanese Breast Cancer Society. *Jpn. J. Clin. Oncol.*, 39, 1, 22-6, 2009.

Ogawa K., Nakamura K., Sasaki T., Onishi H., Koizumi M., Araya M., Shioyama Y., Okamoto A., Mitsumori M., Teshima T., Radical external beam radiotherapy for prostate cancer in Japan: differences in the patterns of care among Japan, Germany, and the United States. *Radiat. Med.*, 26, 2, 57-62, 2008.

Kosaka Y., Mitsumori M., Yamauchi C., Narita Y., Hiraoka M., Feasibility of accelerated partial breast irradiation using three-dimensional conformal radiation therapy for Japanese women: a theoretical plan using six patients' CT data. *Breast Cancer,* 15(1) 108-14, 2008.

Nakamura K., Mizowaki T., Imada H., et al., External-beam radiotherapy for localized or locally advanced prostate cancer in Japan: a multi-institutional outcome analysis. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 38 (3) 200-204,2008

Sekine I., Sumi M., et al., Local control of regional and metastatic lesions and indication for systemic chemotherapy in patients with

non-small cell lung cancer. *Oncologist* 17 21-27, 2008

Fujimoto N., Sumi M., et al., Relation between elective nodal failure and irradiated volume in non-small-cell lung cancer (NSCLC) treated with radiotherapy using conventional fields and doses. *Radiotherapy and Oncology*, 2009 (in press)

Kodaira T., et al., Aichi Cancer Center initial experience of intensity modulated radiation therapy for nasopharyngeal cancer using helical tomotherapy. *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 2008 (in press)

Fuwa N., Kodaira T., et al., Intra-arterial chemoradiotherapy for locally advanced oral cavity cancer: analysis of therapeutic results in 134 cases. *Br. J. Cancer* 98(6) 1039-45, 2008

Fuwa N., Kodaira T., et al., A new method of selective intra-arterial infusion therapy via the superficial temporal artery for head and neck cancer. *Oral Surg. Oral Med. Oral Pathol. Oral Radiol. Endod.* 105(6) 783-9, 2008

Nakamura K., Kodaira T., et al., Accelerated fractionation versus conventional fractionation radiation therapy for glottic cancer of T1-2N0M0 Phase III Study. *Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG 0701). Jpn. J. of Clin. Oncol.* 38(5) 387-9, 2008

Fuwa N., Kodaira T., et al., Arterial chemoradiotherapy for locally advanced tongue cancer: analysis of retrospective study of therapyetic results in 88 patients. *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 72(4) 1090-1100, 2008

Fuwa N., Kodaira T., et al., Treatment results of continuous intra-arterial CBDCA infusion chemotherapy in combination with radiation therapy for locally advanced tongue cancer. *Oral Surg., Oral Med., Oral Pathol., Oral Radiol. Endod.* 105(6) 714-9, 2008

Fuwa N., Kodaira T., et al., Treatment results of boron neutron capture therapy (BNCT) using intra-arterial administration of boron compounds for recurrent head and neck cancer. *Br. J. Radiol.* 81(969) 749-52,2008

Fuwa N., Kodaira T., et al., Identifying patients with peripheral-type early non-small cell lung cancer (T1N0M0) for whom irradiation of the primary focus alone could lead to successful treatment. *Br. J. Radiol.* 81 (970) 815-20, 2008

Fuwa N., Kodaira T., et al., Long term observation of 64 patients with roentgenographically occult lung cancer treated with external irradiation and intraluminal irradiation using low-dose-rate iridium. *Jpn. J. of Clin. Oncol.* 38(9) 581-8, 2008

Nakamura K., Kodaira T., et al., Chemoradiotherapy for locally recurrent nasopharyngeal carcinoma: treatment outcome and prognostic factors. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 38 (12) 803-9, 2008

Tomita N., Kodaira T., Helical tomotherapy for brain metastases: dosimetric evaluation of treatment plans and early clinical results. *Technol. Cancer Res. Treat.* 7 (6) 417 – 24, 2008

Kodaira T., et al., Prospective study of alternating chemoradiotherapy consisted of extended-field dynamic conformational radiotherapy and systemic chemotherapy using 5FU and Nedaplatin for patients with high-risk

group of cervical carcinoma. *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 73(1) 251-258, 2009

Ariji Y., Kodaira T., False-positive positron emission tomography appearance with 18F-fluorodeoxyglucose after definitive radiotherapy for cancer of the mobile tongue. *Br. J. Radiol.* 82 (973) e3-7, 2009

古平　毅　新時代の高精度治療装置　トモセラピー.　*病院設備* 50(1) 60-67, 2008

古平　毅　低侵襲化をめざした放射線治療の現況と展望「放射線化学療法」 ***Biotherapy*** 22（3） 166-175, 2008

古平　毅　質疑応答　前立腺癌のトモセラピーの適応.　*週間日本医事新報* 4393 94-95, 2008

古平　毅　頭頸部の診断と治療 update　1. 総論　化学療法との併用.　*臨床放射線* 53(11) 1570—1577, 2008

古平　毅　シンポジウム　化学放射線療法の適応　同時化学放射線療法　頭頸部がんに対する同時化学放射線療法の現状と問題点.　*頭頸部癌* 34(3) 249-253, 2008

古平　毅　特集いまさら聞けない!?　放射線治療のQ＆A　IMRT て何？どんな装置があればできるの？何に使うの？全部 IMRT にしないの？保険点数は？トモセラピーって新しい治療法？ ***Rad Fan*** 6(11) 66-68, 2008

古平　毅　特集　注目される放射線治療の課題と展望　トモセラピーによる前立腺癌強度変調放射線治療—他の機器との比較を含め—.　*新医療* 35(12) 71-74, 2008

古平　毅　「進化する放射線療法最新事情」トモセラピーによる IMRT(強度変調放射線治療)の実際.　*隔月刊誌がん患者ケア* 2(3) 20-25, 2009

立花　弘之、古平　毅、他　前立腺癌の放射線治療におけるフラクション間の前立腺移動に関する MVCT を用いた検討.　*臨床放射線*　53（2）　329-334, 2008

田近正洋、古平　毅、他　特集 I 進行食道癌に対する治療法の選択　c-Stage II/III 胸部食道癌に対する手術療法と化学放射線療法の比較検討.　*消化器科* 46(5) 499-505, 2008

長谷川泰久、古平　毅 耳下腺悪性腫瘍の検討.　*頭頸部癌* 34(3) 360-364, 2008

Doskaliyev A., Yamasaki F., Kenjo M., Shrestha P., Saito T., Hanaya R., Sugiyama K., Kurisu K.,　Secondary anaplastic oligodendroglioma after cranial irradiation: a case report.　*Journal of neuro-oncology* 88(3) 299-303, 2008

Shibamoto Y., Ogino H., Suzuki G., Takemoto M., Araki N., Isobe K., Tsuchida E., Nakamura K., Kenjo M., Suzuki K., Hosono M., Tokumaru S., Ishihara S., Kato E., Ii N., Hayabuchi N., Primary central nervous system lymphoma in Japan: Changes in clinical features, treatment, and prognosis during 1985-2004.　*Neuro －Oncology* 10(4) 560-568, 2008

Kenjo M., Murakami Y., Uno T., Nagata Y., Saito S., Sato K., Numasaki H., Teshima T., Mitsumori M., Radiation therapy for esophageal cancer in Japan: preliminary results of the patterns of care study 2003-2005. *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 72(1) Suppl S267, 2008

Sugiyama K., Yamasaki F., Kurisu K., Kenjo M., Quality of life of extremely long-time germinoma survivors mainly treated with radiotherapy. *Progress in Neurological Surgery*

23 130-139, 2009

和田崎晃一, 安本博晃, 松原昭郎, 幸慎太郎, 権丈雅浩, 兼安祐子, 村上祐司, 末宗慈子, 永田靖, 伊藤勝陽, 碓井亞, 前立腺癌に対する密封小線源療法の短期治療成績. *広島医学* 61(5) 389-394, 2008

永田靖, 権丈雅浩, 村上祐司, 兼安祐子, 橋本泰年, 藤田實, 伊藤勝陽, 中咽頭. *臨床放射線* 53(11) 1621-1625, 2008

園尾博司監 福田護, 池田正, 佐伯俊昭, 鹿間直人 編 *これからの乳癌診療 2008-2009* 金原出版,東京 2008

Sasaki S., Shikama N., et al., Relationship between the response to treatment and the prognosis of patients with aggressive lymphomas treated with chemotherapy followed by involved-field radiotherapy: Radiographic assessment. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 38 43-48, 2008

Ogawa K., Yoshii Y., Shikama N., et al., Spinal recurrence intracranial germinoma: Risk factors and treatment outcome for spinal recurrence . *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 72 1347-1354, 2008

鹿間直人, ホジキンリンパ腫の放射線療法に関する話題. 56 443-448, 2008

鹿間直人, 悪性リンパ腫に対する放射線療法-治療成績向上のために. *内科臨床雑誌* 102, 275-279, 2008

鹿間直人, 悪性リンパ腫の臨床試験と放射線医学：リンパ腫多施設共同臨床試験における放射線治療の品質保証と品質管理. *血液・腫瘍科* 57 399-402, 2008

鹿間直人, 名医にQ—肺癌 NHK 出版 *名医にQ—肺癌* NHK 出版, 2008

Vale C., Onishi H., (Chemoradiotherapy for cervical cancer meta-analysis collaboration.) Reducing uncertainties about the effects of chemoradiotherapy for cervical cancer: a systemic review and meta-analysis of individual patient data from 18 randomized trials. *J. Clin. Oncol.* 26 5802-5812, 2008

Ogawa K., Yoshii Y., Shikama N., Nakamura K., Uno T., Onishi H., Itami J., Shioyama Y., Iraha S., Hyodo A., Toita T., Kakinohana Y., Tamaki W., Ito H., Murayama S., Spinal recurrence from intracranial germinoma: risk factors and treatment outcome for spinal recurrence. *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 72 1347-1354, 2008

Nakamura K., Mizowaki T., Imada H., Karasawa K., Uno T., Onishi H., Nihei K., Sasaki S., Ogura M., Akimoto T., External-beam radiotherapy for localized or locally advanced prostate cancer in Japan: a multi-institutional outcome analysis. *Jpn. J . Clin. Oncol.* 38 200-204, 2008

大西洋, 放射線治療の変貌と将来展望：発展と課題. *JIRA 会報* 183 2-9, 2008

大西洋, 放射線治療関連機器の現況と将来展望. *医療機器システム白書* 2008-2009 225-227, 2008

小泉雅彦, 骨軟部腫瘍 日本放射線科専門医会・医会. *放射線治療計画ガイドライン 2008* メヂカル教育研究社 東松山市 pp272-277, 2008

Nose T., Koizumi M., et al., In vivo dosimetry of high-dose-rate Interstitial brachytherapy in the pelvic region: use of a radiophotoluminescence glass dosimeter for measurement of 1004 points in 66 patients with pelvic maliganancy. *Int. J. Rad. Oncol. Biol.*

Phys. 70(2) 626-633, 2008

Shibamoto Y., Baba F., Oda K., Hayashi S., Kokubo M., Ishihara S., Itoh Y., Ogino H., Koizumi M., Incidence of brain atrophy and decline in mini-mental state examination score after whole-brain radiotherapy in patients with brain metastases: A prospective study. *Int. J. Rad. Oncol. Biol. Phys.* 72(4) 1168-73, 2008

Yamazaki H., Yoshida K., Yoshioka Y., Isohashi F., Ozeki S., Koizumi M., et al., Impact of mitochondrial DNA on hypoxic radiation sensitivity in human fibroblast cells and osteosarcoma cell lines. *Oncol. Rep.* 19(6) 1545-9, 2008

今村文生、上野清伸、楠洋子、内田純二、吉村真奈、小泉雅彦、他 末梢小型肺癌に対する高線量小線源治療. *成人病* 48(2) 47-48, 2008

高橋豊、隅田伊織、小泉雅彦、他 基礎講座 I-125 密封線源による前立腺永久挿入治療 I-125 永久挿入治療へ関わろう! 物理的 QA の解説. *日本放射線技術学会雑誌* 64(11) 1439-1443, 2008

中川恵一, 前立腺癌の基礎知識. *日本医事新報* NO. 4385 53-56, 2008

井垣浩, 甲賀智之、中川恵一, 中枢神経系. 疾患*画像診断* Vol. 128, No. 6 500-506, 2008

中川恵一, 前立腺癌の強度変調放射線治療. *日本医事新報* No. 4390 53-56, 2008

中川恵一, 前立腺癌の小線源治療. *日本医事新報* No. 4394 53-56, 2008

中川恵一, 死生学とがん医療の接点を求めて. *Pharma Media* Vol. 26, No. 7, 9-10, 2008

中川恵一, 体幹部疾患に対する定位放射線治療. *医学のあゆみ* Vol. 226, NO. 6-7 516-520, 2008

中川恵一, 体幹部照射認可で Cyber-Knife II が与える放射線治療への影響. *新医療* 12 月号 68-70, 2008

中川恵一, IMRT 専用機 : TomoTherapy (トモセラピー) *医学のあゆみ* Vol. 227, No. 9 660-662, 2008

Numasaki H., Ohno Y., Ishii A., Kasahara S., Fujimoto H., Harauchi H., Inamura K., Monden M., Sakon M. Workflow Analysis of Medical staffs in Surgical Wards Based on the Time-Motion Study Data. *Japan Hospitals* 27 75-80, 2008

小澤壯治, 日月裕司, 田中乙雄, 篠田雅幸 宇田川晴司, 松原久裕, 馬場秀夫, 竹内裕也, 小山恒男, 室圭, 宇野隆, 手島昭樹, 沼崎穂高, 山名秀明, 小西敏郎. 食道癌全国登録の再開にあたり 一問題点と解決法一. *癌と化学療法* 35 (9) 1497-1499, 2008

Igaki H., Nakagawa K., Shiraishi K., Shiina S., Kokudo N., Terahara A., Yamashita H., Sasano N., Omata M., Ohtomo K., Three-dimensional Conformal Radiotherapy for Hepatocellular Carcinoma with Inferior Vena Cava Invasion. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 38(6) 438-444, 2008

2. 学会発表

Teshima T., JASTRO database committee and Japanese PCS Working Group. Current situation in radiotherapy in Japan. Modern Radiation Oncology: Innovative Technologies and Translational Research. The 21st International Symposium Foundation for Promotion of Cancer Research, Feb.19-21, 2008, Tokyo, Japan.

Ogawa K., Nakamura K., Sasaki T., Onishi H., Koizumi M., Shioyama Y., Araya M., Okamoto A., Mitsumori T., Teshima T., External beam radiotherapy for clinically localized hormone-refractory prostate cancer: Clinical significance of nadir prostate-specific antigen within 12 months. The 50th Annual ASTRO meeting, September 21-25, 2008, Boston, USA.

Kenjo M., Murakami Y., Uno T., Saito S., Sato K., Numsaaki H., Teshima T., Mitsumori M., Radiation therapy for esophageal cancer in Japan: Preliminary results of the Patterns of Care Study 2003-2005. The 50th Annual ASTRO meeting, Sept. 21-25, 2008, Boston, USA.

手島昭樹. 放射線治療の quality assurance; 施設 audit.「インフラ整備;登録一元化と新認定制度(New registry & authorization system, Why now?)」公開討論会. 第30回日本造血細胞移植学会総会 2008年2月 大阪

三木恒治, 時代の課題 高齢者腫瘍学:「高齢者泌尿器がん」 第46回日本癌治療学会総会 教育シンポジウム 2008年 名古屋

Kasamatsu T., et al., Radical Hysterectomy for Stage IIB Cervical Cancer: 20-year Experience at National Cancer Center Hospital in Tokyo. 12th Biennial Meeting, International Gynecologic Cancer Society. October, 2008, Bangkok, Thailand

菊山 みずほ, 木下 貴之, 他 乳腺原発 basaloid carcinoma の一例. 第5回日本乳癌学会関東地方会, 一般演題, 2008年 埼玉

木下 貴之, 他 高度医療に係る早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法 (RFA) 多施設共同研究. 第46回日本癌治療学会総会, パネルディスカッション, 2008年 名古屋

木下 貴之, 他 非浸潤性乳管癌に対するセンチネルリンパ節生検の現状と展望. 第108回日本外科学会定期学術集会, シンポジウム, 2008年 長崎

吉田 美和, 木下 貴之, 他 BI-RAD-MRI を用いた非浸潤性乳管癌 (DCIS) の診断と治療戦略. 第108回日本外科学会定期学術集会, サージカルフォーラム, 2008年 長崎

中野 絵里子, 木下 貴之, 他 国立がんセンターにおけるトリプルネガティブ乳癌の再発形式と予後について. 第108回日本外科学会定期学術集会, サージカルフォーラム, 2008年 長崎

北條 隆, 木下 貴之, 他 乳がんの家族歴を有する乳がん患者の臨床・病理学的検討と展望. 第108回日本外科学会定期学術集会, デジタルポスターセッション, 2008年 長崎

岡田 菜緒, 木下 貴之, 他 DCIS に対する乳房温存療法の展望. 第108回日本外科学会定期学術集会, デジタルポスターセッション, 2008年 長崎

明石 定子, 木下 貴之, 他 21遺伝子発現プロファイルと乳癌術前内分泌療法の効果予測. 第108回日本外科学会定期学術集会, デジタルポスターセッション, 2008年 長崎

吉田 亮介, 木下 貴之, 他 破骨細胞様巨細胞の出現を伴う乳癌の9例. 第70回日本臨床外科学会総会. 講演, 2008年 東京

明石 定子, 木下 貴之, 他 画像所見から見た手術の個別化. 第16回日本乳癌学会学術総会, プレジデンシャルシンポジウム, 2008年 大阪

北條 隆, 木下 貴之, 他 アロマスターゼ阻害剤を用いた乳癌術前治療の検討と展望.

第16回日本乳癌学会学術総会，シンポジウム，2008年　大阪

木下 貴之，北條 隆，他　術前化学療法後乳癌症例に対するセンチネルリンパ節生検の現状と展望. 第16回日本乳癌学会学術総会，パネルディスカッション，2008年　大阪

清水 千佳子，木下 貴之，他　HER2陽性乳癌に対する術前化学療法後の予後に影響を与える因子の検討. 第16回日本乳癌学会学術総会，パネルディスカッション，2008年　大阪

枝園　忠彦，木下　貴之，他　転移性乳癌に対する早期原発巣切除の意義～NCCHのデータとJCOG乳腺班の研究計画. 第16回日本乳癌学会学術総会，パネルディスカッション，2008年9月　大阪市

加賀美 芳和，木下 貴之，他　乳房温存療法における3次元原体放射線治療（3DCRT)による加速乳房部分放射線治療についての検討. 第16回日本乳癌学会学術総会，ワークショップ，2008年　大阪

関 邦彦，木下 貴之，他　術中ラジオ波熱焼灼凝固療法後切除検体の病理組織学的検討－適応症例について. 第16回日本乳癌学会学術総会，口演，2008年　大阪

小野 麻紀子，木下 貴之，他　乳癌の術前化学療法の効果と予後に関する検討. 第16回日本乳癌学会学術総会，口演，2008年　大阪

田村 宜子，木下 貴之，他　乳がん術前化学療法の新たなる予後予測因子の研究と今後の展望. 第16回日本乳癌学会学術総会，口演，2008年　大阪

中野 絵里子，木下 貴之，他　トリプルネガティブ乳癌と術前化学療法. 第16回日本乳癌学会学術総会，口演，2008年　大阪

岩本 恵理子，木下 貴之，他　術前化学療法後の画像評価－MMG上の石灰化について－. 第16回日本乳癌学会学術総会，口演，2008年　大阪

吉田 美和，木下 貴之，他 BI-RADS-MRI診断を応用した非浸潤性乳管癌（DCIS）の治療戦略. 第16回日本乳癌学会学術総会，口演，2008年　大阪

長尾 知哉，木下 貴之，他　転移予測因子としてのリンフォシンチグラフィ（LPG）におけるRI値の検討. 第16回日本乳癌学会学術総会，口演，2008年　大阪

岡田 菜緒，木下 貴之，他　Metaplastic carcinomaの検討. 第16回日本乳癌学会学術総会，示説討論，2008年　大阪

吉田 亮介，木下 貴之，他　破骨細胞様巨細胞の出現を伴う乳癌の臨床病理学的検討. 第16回日本乳癌学会学術総会，示説討論，2008年　大阪

木下 貴之，　非浸潤性乳管癌に対するセンチネルリンパ節生検の適応と意義. 第10回Sentinel Node Navigation Surgery研究会学術集会，シンポジウム，2008年秋田

木下　貴之，当センターにおける早期乳癌に対するラジオ波熱凝固療法－手枝の確立と安全性の評価初期成績－. 第16回日本乳癌学会学術総会，モーニングセミナー，2008年　大阪

Kinoshita T., Shien T., et al., Sentinel node biopsy for breast cancer patients after primary chemotherapy. 6th Biennial International Sentinel Node Society Meeting. Oral presentation, 2008, Sydney, Australia

Shien T., Kinoshita T., et al., Sentinel node biopsy after excisional biopsy or ipsilateral